

地球科学を体系的に理解し 自らの考えを持つ

森杉 雅史 教授

Prof. Morisugi Masafumi

人間と環境

1 年前期 / 教養教育部門 (自然と環境科目群)

温暖化問題の「主流派」と「懐疑派」

— 「人間と環境」で学べることはどんなことですか。

「人間と環境」は、地球温暖化問題についての講義です。私自身これまで、約 15 年間にわたって、同学部の大野栄治教授と共に温暖化の研究を進めてきました。そこで得た知見を活かしながら、環境問題を学生にわかりやすく、また自分ごととして捉えてもらえるように伝えるよう、努めています。

— 具体的な内容について、教えてください。

地球温暖化問題には、IPCC (気候変動に関する政府間パネル) など世界の専門家を席捲する「主流派」と、それ以外の見解を持つ「懐疑派」が存在します。答えの出ない問題であるがゆえ、これらの真贋を確かめるためにはかなり注意深く事実や統計を見定める力や、地球科学を体系的に理解する力が不可欠です。もちろん私も自分なりの見解を持っていますが、それを押し付けるのではなく、そうした考え方が複数あることや、それぞれの考え方が根拠や理屈を持っていることを、フラットに伝えるようにしています。地球温暖化問題に対する知識の引き出しを増やす機会にしてもらいたいですね。

Online Class in 2020

文字で理解できるような資料づくり

Web Class を活用した遠隔授業でしたが、PowerPoint の資料に加えて、1 ページごとに解説するスピーチ原稿を準備しました。Acrobat の読み上げ機能も紹介し、スライド資料を見ながら、耳では解説を聞きながら学ぶ形を提案しました。掲示板には感想や質問を書いてもらい、交流を図りました。

自分の考えを見つめるきっかけに

— 異なる考え方が存在するんですね。

科学というのは、真理とされる法則を見つけることが重要ですが、その法則の考え方も人によって異なります。地球科学の場合、実験ができないため、観測的事実での判断が必要で、その捉え方に主観的判断が入ります。それゆえ、こうして主流派と懐疑派に分かれて永遠に論争しているんだと思います。講義の中では、多数の凡例を紹介していきますので、それらをふまえ、まずは複数の考え方が存在することを知った上で、自分はどんな考えを持っているのかを考え抜いてほしい。そして、地球温暖化問題の本質はこうである、と、**自分の中で最も納得できる考え方を**見つけてほしいと思っています。

— この講義から、どのようなことを得てほしいですか。

環境問題は、決して特殊なフィールドではありません。エネルギー問題と同じく、今後の普遍的な生活や、自分の人生にまで関わってくる問題です。机上の空論ではなく、自分ごととして捉えつつ、今後、さらに高度な科学的疑問を追及する上で必要な知識や考え方を身につけてほしいと思っています。

学生の声



岩田 奈々さん (1 年生)

そもそも主流派と懐疑派があることを初めて知りましたが、私は主流派の意見を持ちました。私たち人間が、率先して地球温暖化を阻止していかなければいけないと感じました。森杉先生の講義は毎回とても興味深く、環境問題についてこれまでとは違った視点で考えられるようになったと感じます。